

音楽サークル「ドラむす」は楽しいよ!

—『音楽サークル ドラむす』—

心がやさしくなる歌を障がいのある人もない人も一緒に歌い、また楽器を使って音楽を楽しみ、歌った後はさらに元気になることができる。そんな団体が「ドラむす」です。私も参加させてもらい充実した“心の日曜日”を満喫しました。

ドラむすが大切にしていること

松田美和さんは代表として全員をまとめるだけでなく、ご自分もギターパートを担当するかたわら作詞も経理もするというマルチな活躍をされています。そんなお忙しい松田さんに練習後、打ち合わせの合間にお話をうかがいました。

まず「ドラむす」の理念についてお聞きしたところ、以下の3つがベースにあるということでした。

1. 障がいがあるなしにかかわらず誰もが主人公になれる音楽活動を行う。
2. 障がいのある人たちが音楽を通じて自分自身を表現し、たくさんの人々とコミュニケーションをとることができる関係作りを目指す。
3. この活動を社会資源とし、活動を通じて障がいのある人たちの社会参加を目指す。

どんなサークル?

名古屋市南区内の障がい者施設で始めたサークル活動を、2004年6月に地域の音楽サークルとして再出発させたそうです。サークル名は、メンバーたちが好きな「ドラえもん」と結成当初人気のあった「モーニング娘」を組み合わせ命名されました。メンバーは小学生から成人の男女約20人で構成。そのうち半分以上の人に知的障がい、身体障がいなどがあ

ります。全体練習ではギター、キーボード、カホンのリードで、スネアドラム、タンバリンなどの打楽器も交えて障がいのある人たちも体でリズムをとりながら歌います。楽器の種類は障がいのある人に配慮して選定しているうちにひとつひとつ増え、かなりの種類を保有することになったそうです。私が参加した時もウクレレや歌いながら吹くと声の調子が音になる!という不思議な楽器「カズー」があったり、波の音を演出する楽器もあったりと普段みられないような楽器がありました。ドラむすの音楽を見ていると、その人にあった楽器を使い、好きな曲の時にはより楽しく歌うという音楽の原点を感じました。

活動

第4日曜日の10時～14時30分に名古屋市瑞穂生涯学習センターで定期的に練習を行っています。そのほか練習の成果を発表する場として瑞穂生涯学習センター主催の「春のこどもまつり」などにも出演しています。特筆すべきは、ひとつの区切りとして結成10周年の記念のコンサートを開いたことです。2014年6月22日に名古屋市北文化小劇場で開かれ、立ち見が出るほどの盛会で約280人の前で22曲を演奏されました。コンサートのサブタイトルは「ぼくらのたからもの」。これはドラむすのオリジナル曲で、松

田さんが作詞、サークルの仲間の神田さんが作曲された曲です。

当日のDVDも見せていただきましたが、おそろいの服を着て参加者それぞれが楽しそうな表情をしていて、とつてもアットホームで心が穏やかになるような演奏会の雰囲気が、映像からしっかり伝わってきました。

ある日の練習風景

練習会場に入った第一印象は「ゆったりした空気感」でした。そのうちにわかったことはいつもの部屋が使えなくて、当日の会場は調理室だったということでした。しばらくして誰か言い出したのが「カレーを作ろう」ということになり、代表の何人かが買出しに行き、お昼はみんなでカレーライスをおいしく食べました。なんと柔軟な発想。そしてなんでも楽しみに変えてしまう団体なんだ!とそのフットワークの軽さに驚いたものでした。

レパートリーは100曲を越えるということですが、その中には、「うたってみよう」や前述の「ぼくらのたからもの」などのオリジナルソングもあるということでした。とりわけ「にじのむこうに」は、全国障害者問題研究会第44回全国大会のテーマソングとして採用されました。

取材当日は「にじ」「ハッピーチルドレン」「世界中のこどもたちが」「パレード」「テルテルポイズ」「かめの遠足」「てをつなごう」、ゆずの「スマイル」、BEGINの「島人ぬ宝」などの曲を練習していました。1曲1曲が心にしみる曲で、飽きることなく聞いていたら終了のお昼に。仲間の何人かは途中までなかなか乗り切れていませんでしたが、その時、不思議なことが起こりました。それまで無表情だった子が「ス

マイル」の歌になった途端に手拍子を打ち、体でリズムをとりながら歌いだしたのです。また「大きな古時計」の歌になった時もそうでした。それまであまり歌の輪に入っていないように見えたメンバーの一人が突然歌い始めたのです。それがキッカケとなり、その後は楽しそうにみんなと歌っていました。他のメンバーもそれぞれの好きな曲になった時に、スイッチが入ったように歌いだす光景を見ました。本当に一人ひとりお気に入りの歌があることがよくわかり、みんな自分のなかにある固有の時間の中で社会とかかわっているのかなあとも思いました。そんなことを考えていた時に、「暖機運転」というフレーズが浮かんできました。歌いだしてから気持ち乗ってくるまでに少し時間はかかるけど、心の中の温度が一定以上になり自分の好きな曲になった時にその殻が破れるように思えたからです。また、みなさんがよくご存じの「アイアイ」を歌い終わった時、メンバーの一人が「おサルさんの着ぐるみを誰か着ない?」と言い出しました。話は盛り上がり、本当に着ぐるみを着ておサルに変身することになったのです。すごいのり!ただただ、感心するばかりでした。

取材を終えて

練習がスタートした時点では固かった表情が一つの曲をキッカケに、一気に変わり音楽の世界に入っていく。その瞬間に立ち会えたことに心から感動しました。松田さんは「自分たちでできることをやっていきたい」とおっしゃっていました。背伸びせず、ゆっくりとした歩みで自分たちも楽しみながら、人に元気とやさしさを与える「ドラむす」の活動はまだまだ進化しそうです。

Information

音楽サークル ドラむす

Web : <http://www.doramusu.net/>

Blog : <http://blog.canpan.info/doramusu/>

E-mail : doramusu@gmail.com

一緒に歌いたい、演奏したいという新たなサークル員、活動を支えてほしいというあなた、ぜひ一度遊びに来てください。

【今後のステージ予定】

2015年9月27日(日)

瑞穂区社会福祉協議会主催「わくわくみずほまつり」

2016年3月13日(日) 予定

瑞穂生涯学習センター主催「春のこどもまつり」



コンサートは大成功でした!



ドラむす10周年コンサートようこそ!